

新 秋 剣 連

発行
秋 田 県 剣 道 連 盟
〒010-0914
秋田市保戸野千代田町 14-12
SAKAEビル 2F-B
TEL 018-883-0680
FAX 018-883-0663
E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp
http://akitakenren.com/

第8回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会・初準優勝

平成25年9月15日(日)・舞洲アリーナ(大阪府)

全国準優勝を成し遂げて

監督 尾形 茂

去る九月十五日大阪市舞洲アリーナで第8回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が開催された。秋田県代表は九月十四日大阪入りし他県代表と練習試合を行ったが思うような試合運びが出来なかった。中でも次鋒の菅原は三十八度の発熱で本来の試合が出来ずにいた。私は明日の選手起用について悩み、思いを巡らせていた。結局満足の行く結果を得ることなく六試合を終えたところで宿に帰る事にした。帰宿後私の部屋でミーティングを行い選手からは今日の反省と本大会に懸ける思いが語られ、指導者から選手に対し自分の役割を頭に入れてチーム一丸となり戦いに臨むよう指示がなされた。私とコーチの及川先生は選手の持てる力を最大限に引き出し、モチベーションを上げてチームに勢いを与える采配を心がけ最善を尽くす事を確認し明日に備えた。

明けて九月十五日、私は監督会議で菅原と補員斎藤の選手交代を願い出した。その後アップを終えた選手を集め選手交代した事を説明し、出場できない菅原の分まで存分に戦うよう闘魂を注入した。予選リーグ三重県戦では

辛うじて二対一で勝利したがチームは昨日からの悪い流れを断ち切れず選手の気持ちも落ち込んでいた。私は直ちに緊急ミーティングを開き秋田から応援のため駆け付けて下さった鎌田先生、後藤先生、植田先生を交えて、選手の気持ちをプラスに変えるような指示を繰り返した。個人で戦うのではなく、チーム力で勝利する事を念頭に置き、試合に臨むよう意志統一がなされた。次の試合までの待ち時間、選手は先を掛け機会を捉えて一本が決まるまで徹底した技の練習を繰り返した。予選リーグ広島県戦、先鋒淡路が一本勝ちし中堅の小野が二本負け、絶対不利の状況だったが大将東海林は臆することなく攻めて二本勝ち。二対一で勝利し決勝トーナメント進出を決めた。私はこの試合、中堅小野が負けた事で選手から「絶対に負けない、必ず勝つ」という強い気が放たれ、はじめてチームが一つになり勢いがついたように感じた。

決勝トーナメント神奈川県戦は先鋒淡路と次鋒斎藤が一本勝ちし、中堅小野は二本負けしたが後の二人が引き分け二対一で勝利し準々決勝進出を決めた。準々決勝静岡県戦では先鋒淡路と中堅小野が二本勝ちし他の三人が引き分け、二対〇で勝利し初の準決勝進出を果たした。選手達は勝利

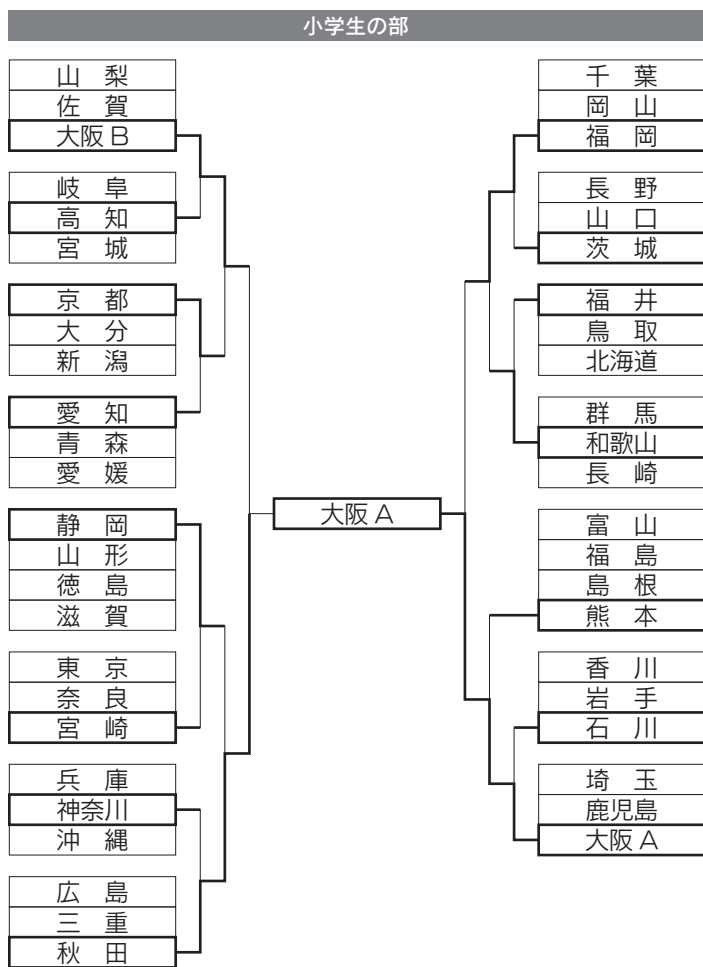
する度に強さを増し確実に成長している。監督の私も負ける訳がないという不思議な感覚に包まれながら準決勝大阪B戦を迎えた。会場の応援は殆どが地元大阪Bに対する声援で、誰もが大阪Bの勝利を信じて疑わなかった。しかし、試合が始まると先鋒淡路、次鋒斎藤、中堅小野と立て続けに勝利し、副将三浦が引き分けたが、大将東海林が勝利で締めて、四対〇で大阪Bに圧勝した。勝利の瞬間会場からは「おおー」という大歓声が沸き上がり観客全員が秋田の強さに驚愕し私自身も選手の強さに鳥肌が立った。



私は決勝戦を前に円陣を作り選手に「この会場にお前達より強い選手はいない。優勝するぞ」と檄を飛ばした。選手は「はい」と答えて最後の戦いに向け、チームのまとまりと集中力は最高潮に達していた。緊張が高まる中、決勝大阪A戦が始まった。先鋒淡路は相手の小手を落着いて見切り、面を打ち込み先取するがその後相手に不意の引き面を取り返され勝負となり、淡路が相手の鰐元を鋭く攻め手元が浮くところに小手を決め勝利した。次鋒齊藤は攻めて惜しい技を繰り出すが一本に出来ず、焦って攻め込んだところに出端面を決められ一本負けした。中堅小野は立ち上がりから厳しく攻めて相手の出端に面を決めた。試合終盤小野の相面が決まったと思われたが旗が別れて時間となり一本勝ちした。副将三浦は相手の中心を攻め真っ直ぐ面に飛び込んだ次の瞬間、相手の面がカウンターで決まり一本負けして勝ち数、本数共同点で大将戦を迎える事になった。大将東海林は相手大将田村の面に対し返し胴を打ち込んだが旗は上がり会場が響めいた。その後も一進一退の攻防が続き東海林が押し気味に試合を進めたが決定打無く時間となり引き分け、代表決定戦となった。私は迷うことなく代表決定戦へ大将の東海林を送り出した。大

阪も大将の田村を送り出して来た。代決になると田村は大将戦とは違って変わり鋭い面を次々に打ち込み東海林を攻め立てた。東海林も応ずるが押され気味に試合は進み延長戦となった。延長でも田村が押し気味に試合を運び田村の面に何度か旗が上がりはじめた。延長三分三十秒を過ぎた頃、田村が鋭く攻込んだ。東海林は一瞬その場に居着き生命線でもある左足を少し退こうとした瞬間、田村が渾身の面を打ち込み仰け反った東海林の面を捉えて勝負有り、大阪Aの優勝が決まった。秋田は全国制覇を逃したが選

手は持てる力を存分に発揮し本大会に参加してから過去最高の結果を残す事が出来た。閉会式を前に、作道正夫先生から「尾形、久しぶりに秋田の元気なところを見せて貰った。素晴らしい剣道だったぞ。」とお褒めの言葉を頂き、閉会式後には秋田出身の岩堀透先生からも「今大会で一番立派な剣道だった、おめでとう。これから頑張れよ。」とお言葉を頂き選手と共に準優勝の喜びを噛みしめた。今大会の結果は選手、指導者共に最高の経験と財産になりました。また秋



準決勝

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	将	勝者数	取得本数	代決
大阪B	恩賀	音揃	山本	鶴岡	田村				
	メ						0	1	
秋田	◎ 淡路	◎ 齋藤	◎ 小野	◎ 三浦	◎ ド	東海林	4	6	

決勝

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	将	勝者数	取得本数	代決
秋田	◎ 淡路	◎ 齋藤	◎ 小野	◎ 三浦	◎ 東海林		2	3	東海林
	◎ メ								
大阪A	メ	◎ 渡邊	◎ 大西	◎ 東	◎ 堅田	田村	2	3	◎ 田村

田という全国一の人口減少県でも取り組み方次第では大都市大阪府とも互角に渡り合える事を証明する結果となりました。今後選手は全国の頂点を目指して稽古に精進し、指導者は剣道の指導と普及発展に全力で取り組む事をお約束致します。最後に今後益々秋田県剣道連盟が発展する事を祈念すると共に素晴らしい人間性を持ち合わせた本場に強い選手がこの秋田県から育つ事を祈念致します。お礼とご報告に変えさせて頂きます。応援本当に有り難うございました。

全日本都道府県対抗少年 剣道優勝大会に出場して

勝平小 東海林 真之介

九月十五日、大阪の舞洲アリーナで行われた都道府県大会に秋田県チームの大将として出場しました。予選リーグは三重県と広島県代表チームと対戦。苦しみながらもどうにか勝ち上がりました。緊張で固かった体や心は次第にほぐれ、決勝トーナメントでは皆、それぞれの持ち味を出し始め、強いと評判の高かった神奈川県や静岡県、そして準決勝では地元の大阪Bを破りとうとう決勝に進んだのです。決勝の相手はこの大会で三度も優勝している大阪の



Aチームです。試合前、監督やコーチの先生から「お前たちは今までになく体が動いている。自信を持って思い切り戦いなさい」と話しかけられ、僕たちは今までになく気持ちが高まって皆が一つになったように感じました。先鋒が勝ち、次鋒は攻めながらも惜しくも負け。中堅は攻めに攻めて一本勝ち。副将、一本負け。そしていよいよ僕の出番です。勝ち数も本数も同数です。僕は僕で勝負を決めてやる！そんな気持ちで臨みましたが引き分け。代表戦です。監督から「真之介、もう一度戦つてこい」

言われ「ようし絶対負けないぞ」と強気で戦う決心で挑みました。しかし、最後はメンを取られてしまいチームは負けてしまいました。

優勝はできなかったけれど思いもしなかったファイナルでの戦い、そして初めての準優勝。強化でたくさんの方の事を教えていただき、一人一人がするべき役割を果たし、選手六人が一つにまとまった事でここまでこれたのだと思います。

監督、コーチの先生はもちろんですが強化で指導をして下さった先生方、強化の仲間、そして応援してくれた家族の支えがあったからだと感じています。これから一生懸命頑張りたいと思います。

各賞受賞者

◎平成25年度 全日本剣道連盟

「剣道功労賞」

加賀谷 誠一（大正14年1月22日生・88歳）

剣道教士七段 前全日本剣道連盟副会長

長・元全日本実業団剣道連盟会長

前全国教育系大学剣道連盟会長

元株式会社フジクラ社長・会長

秋田中学から東京帝国大学卒業後、藤倉電線（株）（現（株）フジクラ）入社。

昭和57年代表取締役社長、平成4年より代表取締役会長、平成5～17年相談役に就任。

剣道界においては、平成6～8年関東実業団剣道連盟会長、平成8～17年全日本実業団剣道連盟会長に就任し、実業団剣道の普及発展に貢献された。

全日本剣道連盟では、平成9年より常任理事、平成11年より副会長（7期14年間）に就任し、医科学関係・文化関係を主に担当され、剣道の普及振興に大きく貢献された。特に、第二次長期構想企画会議では、議長として「剣道指導の心構え」の制定に尽力された。

「剣道有効賞」

最上 慶治（元横手市剣道連盟会長）

「少年剣道教育奨励賞」

八幡平剣道スポーツ少年団

亀田剣道スポーツ少年団

◎平成25年度 秋田県剣道連盟

「幼少年指導奨励賞」

鹿角剣道連盟

八幡平剣道スポーツ少年団

綱木 作之丞

男鹿市湯上市南秋田郡剣道連盟

五城目剣道スポーツ少年団

畠山 徹

秋田市剣道連盟

港北小学校剣道部

三浦 直志

由利本荘にかほ剣道連盟

由利剣道スポーツ少年団

木村 サダ子

横手市剣道連盟

増田尚志会

清水川 龍悦

秋田県剣道道場連盟

湯沢東正剣会

山脇 清子

◎平成25年度 秋の叙勲

「瑞宝小綬章（教育功労）」

和田 満春（元秋田市剣道連盟理事長）

「剣道で心と身体を磨く」

矢野 宏光（国立大学法人高知大学 教育学部 准教授）

なぜ名選手は プレッシャーに強いのか

名選手といわれる人でも、いつも同じ状態で試合に臨んでいるわけではありません。例えば、アメリカ・メジャーリーグで活躍しているイチロー選手であつても、プレッシャーがかかる場面では、耐えきれず吐きそうになるそうです。けれど、それでもいざという場面では高いパフォーマンスを出すことができる。それはいったいなぜでしょう？ トップ選手のすべてがもともとプレッシャーに強いわけではなく、じつはその「コーピング（対処法）」に優れているのです。

イチロー選手のバッターボックスでの動作を見て気づくことがあります。せんか？ バッターボックスに入り、ピッチャー方向にバットを向けて、ユニフォームの肩口をつまみながらゆっくりとバットを構える。彼はこの一連の動作を同じタイミングで繰り返し返します。これは、スポーツ心理学では、パフォーマンス・ルーチン（performance routine）と呼ばれる

動作法のひとつです。ルーティンとは、いくつかの動作を順につなげていく方法で、イチロー選手はこのルーティンを繰り返すことにより、行動面から心理面に働きかけ普段の安定した心を取り戻し、その結果、質の高いバッティングを可能としていたのです。つまり、超一流といわれる選手であつても、自分の心を自由にコントロールすることは困難で、心をコントロールするために身体動作（行動）を有効に用いていたのです。華やかな表舞台に立つトップ選手であつても、その裏側では自分の心と向き合い、自分に合った対処法を見つけ、それを体得するために努力を積み重ねていたのです。

心を安定させる技術は、一生懸命に稽古することで新しい技が使えるようになると同様に、トレーニングによつて上手になっていきます。けれど、それが一朝一夕にできないことも事実。歴史に残る名だたる剣豪達も、その修行の過程で剣の技術だけでなく、心のあり方の重要性に気づき、実戦で揺るがない心の獲得を目指して日々精進していたのです。

才能は発達する

「セルフイメージ（Self-Image）」という言葉をご存じでしょうか？ これは、自分でつくり上げた自分自身のイメージのことです。人は自らを査定し、「自分はこんなもの」と評価します。しかし、心理学の研究から、「自分がつくり上げたイメージ以上になることはきわめて少ない」ことがわかっていきます。つまり、セルフイメージが小さすぎることはその人の発達の可能性を妨げてしまうのです。剣道においても、実力の向上をセルフイメージが邪魔します。「まあこれ以上の昇段は無理だな」「あの人のような技は使えるはずがない」などもそれにあてはまるでしょう。人は「自分はこんなものだ」というセルフイメージをつくった瞬間から、それ以上になることを無意識に制限し、自信と情熱をも失っていきます。ですから、セルフイメージの拡大を制限することは、自らの可能性を制限することに他なりません。気をつけなければいけませんね。

ところで、皆さんは人間が死ぬまでに脳のどれだけを使うかご存じでしょうか？ 一般的にはたった20%といわれています。優れた発明・発見をした偉人であっても脳の30%しか

使っていないというのです。これは、我々には未だに使わずに眠っている大きな可能性が多く潜んでいて、それをこの先どのようにして見つけ出せるかが、その人の成長に大きな影響を与えることに繋がっているのです。

人間の才能を発達させるためには、少なくとも十年、時間にして一万時間という多くの時間が必要とされるといわれます。才能とはその人が生まれ持ったものと考えられている感がありますが、じつは才能も時間をかけて発達することがわかっています。剣道の特徴のひとつは、生涯を通して長い期間継続することができることでしょう。親・子・祖父母の三世代が同じ道場に立ち、互角に稽古ができる特別な種目です。そういう意味では、若い年代にピークが訪れる多くの種目と明らかに異なっています。才能を開花させるためには、積み重ねる時間が必要ですから、そういう意味でも、長く続けられる剣道の特性がメリットになるでしょう。才能がどこまで発達するのか、どこで才能が開花するのか期待が高まります。それだけに、剣道にどのようなかわるにせよ、重要なことは剣道を続けていくことなのです。「続けることも才能」なのですから。

おわりに

私は幼少の頃から剣道に携わり、多くの先生方の導きで現在も剣道を続けています。その過程でご指導を頂いた先生方はみな素晴らしい方でした。愛情と情熱を以て育ててもらいました。その精神は今でも私の中に生き続けています。秋田県に生まれ、この地で剣道の基礎をつくって頂いたことは、私にとって大きな財産となっております。剣道に携わっている剣士の皆様には、今後も秋田の大地のようにスケールの大きな秋田の剣道を継承して頂きたいと願っておりますし、一方でまだ剣道に携わっていない方々には、ぜひこの秋田県で剣道を学び始めて欲しいと強く望みます。剣道とは、身体をわざわざ過酷な場に置き、その中で心と身体を鍛えて育てるものです。とかく、現代社会は、楽で楽しいことに流れ、辛く苦しいことから目をそらすことに偏重しがちですが、強くたくましい人間を育てるために、今こそ剣道の持つ特性を生かすべきでしょう。私も微力ではありますが、剣道の魅力をより多くの人に伝え、剣道人口の拡大に尽力したいと考えております。現在私は、遠く四国・高知におりますが、どこにいても秋田県剣道

連盟の皆様のご活躍を応援しております。

この度は、このような貴重な機会を与えて頂いたことに心から感謝申し上げます。

【著者紹介】矢野 宏光（やのひろみつ）

一九六八（昭和四十三）年 秋田県湯沢市生まれ（四十五歳）。湯沢東小学校・湯沢北中学校卒業、湯沢高校卒業、東海大学体育学部武道学科剣道コース卒業。東海大学大学院修士課程体育学研究科（運動心理学）修了。名古屋大学大学院博士後期課程教育発達科学研究科（心理学）満期退学。現在、国立大学法人高知大学教育学部保健体育分野准教授。

スポーツ心理学のスペシャリストとしてさまざまな競技のサポートに取り組むと同時に同大学剣道部監督。また、スウェーデン王国剣道ナショナル・チーム監督（二〇〇四―二〇〇九）など国際的にも活躍。一貫して「こころ」と「からだ」のつながりに焦点をあてた研究活動を展開。

全日本東西対抗剣道大会出場（優秀試合賞一回）など。剣道教士七段。

二〇〇八年から月刊剣道時代のコラム「こころの強化書」を連載中（現在六十四回まで刊行）。

最近の著書「本番で差がつく 剣道のメンタル強化法」体育とスポーツ出版社（二〇一三）



25年度六段・七段称号合格者

氏 名（所属）受審地・月日

剣道七段

小林 俊 夫（由利本荘にかほ）
中 森 一 男（大曲仙北）
京 都 ・ 4 月 30 日

山 田 薫（秋田市）
永 井 隆 康（秋田市）
愛 知 ・ 5 月 11 日

高 橋 彰（横手市）
山 崎 良 明（横手市）
山 形 ・ 8 月 17 日

藤 澤 範 行（大曲仙北）
今 野 憲 夫（横手市）
東 京 ・ 11 月 26 日

柳 谷 和 夫（大館北秋）
京 都 ・ 4 月 29 日

佐 藤 良 子（大曲仙北）
京 都 ・ 4 月 29 日

廣 谷 晃 一（秋田市）
鶴 田 浩 一（秋田市）
菅 原 勉（湯沢雄勝）
廣 瀬 昌 一（横手市）
及 川 昭（秋田市）
保 坂 文 明（秋田市）
富 塚 謙 一（大曲仙北）
川 原 弘 義（湯沢雄勝）
福 原 堅 悦（大曲仙北）
山 形 ・ 8 月 18 日

高 橋 静（秋田市）
愛 知 ・ 11 月 17 日

大 野 晃（男湯南秋）
熊 谷 隆 彦（大曲仙北）
橋 本 寛（由利本荘にかほ）
山 脇 清 子（湯沢雄勝）
田 村 清 隆（秋田市）
東 京 ・ 11 月 25 日

剣道教士

粕 谷 道 明（由利本荘にかほ）
糸 井 一 保（横手市）
武 田 享（由利本荘にかほ）
東 京 ・ 11 月 26 日

剣道錬士

植 田 厚（由利本荘にかほ）
佐 藤 真 之（鹿角）
京 都 ・ 5 月 6 日

茂 木 靖 生（大曲仙北）
中 村 亜 希 子（横手市）
中 村 卓 道（大曲仙北）
佐 藤 文 法（大館北秋）
大 友 理 宣（湯沢雄勝）
佐 藤 洋 平（秋田市）
山 村 浩 秋（秋田市）
後 藤 竜 美（大曲仙北）
東 京 ・ 11 月 26 日

居合道教士

木 内 恵 一（由利本荘にかほ）
東 京 ・ 11 月 26 日

居合道錬士

戸 田 愷 章（横手市）
小 助 川 孝（秋田市）
東 京 ・ 11 月 26 日

七段審査会に臨んで



山崎 良明 (横手市)

去る八月十七日、山形市にて行われた七段審査会で幸いにも合格をすることができました。剣道を始めたのは中学校に入学したときです。私は、今年六十五才になりました。途中、時折のブランクはありますが、足掛け半世紀以上続けたことになりました。

第一回秋田県郡市対抗剣道大会が横手市で開催されるのをきっかけに、連盟稽古会が発足、更にその後、横手市武道館が竣工され、稽古会がより充実されたことが稽古を続けられる大きな要因となりました。また、稽古が終わった後、風呂上がりの「旨いビールを飲みたい」という、動機は多少不純ではありますが、この魅力もそれなりに稽古を続けさせてくれた要因のひとつと思っています。

七段審査会には十年前に一度挑戦しました。その折の予備審査会で故内山先生より「打ち過ぎる」という指摘をいただきました。その後「打ち過ぎるのも力量不足のため」と思い稽古をしていました。この度の受審に当たっての予備審査会では、その点を注意しながら立ち会いを行いました。小松誠先生より「良かった」と講評をいただき、本審査に臨む際

の大きな支えとなりました。当日は「無心」を心掛け、「唯、体の反応するままに動く」という事を念頭に臨みました。立ち会いが終わった後は、自分では良い出来とは思えませんでした。帰ってから録画をしてみたら、打った技は返されていました。一本になっていた技は無意識に出たものであり、自分では記憶に無いものでした。

最近読んだ本の中に、「剣道はあまり器用でない人が意外と稽古を長く続け、結果として技を習得している。」所謂「継続は力なりです。」ということが書かれていました。私も多くの方々に支えられ、継続出来た事により、この度の昇段に繋ぐ事が出来たのだと思っています。

稽古再開そして挑戦



高橋 彰 (横手市)

中学校から始めた剣道ですが、事情があり、三十代に入っ

てから稽古を中断してしまいました。再開のきっかけとなったのは、連盟の各氏から六段への挑戦を進められたことです。実に二十年ぶりに稽古を始めたわけですが、稽古場である横手市武道館には多くの会員が稽古に参加していて、違和感なく稽古に

復帰できました。その年二度目の挑戦で六段に合格し、七年後の今年山形審査会で七段に合格することができ、感無量の思いです。

稽古は週二回から三回で、地稽古の他基本稽古も欠かさず行うようにしました。高段者の先生方や若い先生方に対しては、積極的に技を出す稽古、小中学校の生徒には打たせながら姿勢を崩さず相手の隙を探る稽古、そして剣道形はできるだけ練習のたびに行いました。また、普段の運動不足から体力がもたず、すぐに息が上がるようになってしまったので、日常の生活の中で毎日夜竹刀と木刀の素振りの他、駅やビル内ではエレベーターは使わず階段を利用、近場の移動は自転車を使う等、できるだけ普段から体、特に足腰を使うことを心がけました。

予備審査会では、目黒大作先生・小松誠先生による剣道形の細部に亘る留意点を、実技においては実際に立会いを行い、技に関するその他の所作・着装等についてもきめ細かくご指摘いただきました。さらに審査会までの一か月間の稽古のポイントを教えていただきました。特に目黒先生から、思いがけなく、「いい攻めをしている」との言葉をいただいたことが自分の中で最大の自信につながり、審査の当日は強い気持ちで臨むことができました。立ち合いの相

手は間合いをとらせてくれなく、とてもやりにくい相手でしたが、おかげさまで納得のいく面を打ち切ることができました。

一時は剣道をあきらめかけていた自分ですが、稽古を再開して目標の七段に合格出来たことに大きな達成感を感じています。伝達講習会等の挨拶の中で秋剣連会長の鑑先生がよくおっしゃっている言葉（剣道を通して社会に貢献できる人間形成を目指す）を私はいつも念頭に置いて稽古をしています。今後共時間と体力の許す限り稽古を続けていきたいと思っていますのでよろしく願います。

セルビアで剣道指導

柏木幹夫さん（六十二）「※剣道教士七段 元秋田県剣道連盟事務局長」が十月一日に日本を出発し、二年間の予定でセルビアに滞在し剣道指導をしています。JICA（国際協力機構）のシニア海外ボランティアとして剣道指導に当たるほか、セルビアアナショナルチームのコーチを務めます。

尚、秋剣連のHPに柏木さんの「セルビア剣道日記」を掲載、現地での活躍を紹介しています。

「恩師の思い出―隻腕義足の剣士 宮崎広治―」

秋田県剣道連盟 理事長 小松 誠



私が秋田県大館市立第三中学校（現大館東中学校）へ入学し、初めて竹刀を

握ったのは、昭和三十八年のことだった。ここに、エッポ先生という片手片足の先生が剣道の指導をしていた。元青森県立浪岡高校校長、現青森県剣道連盟総務部長の宮崎徹先生（大館鳳鳴高から東京教育大・教士七段）の父上、宮崎広治先生であった。

私が初めて宮崎先生と会った、というより見たのは、小学校の一、二年（昭和三十一年・三十三年）の頃と記憶している。当時中学校の野球場で、左手一本の先生がノックをしている姿があった。左手一本なので、ついたあだ名が「エッポ（一本）先生」であった。後にこれをもじって「一峰」と号した。先生は右腕・左足を失いながらも、野球に剣道にと情熱を燃やした大館市の名物先生であった。

宮崎先生は昭和十五年（十九歳）、北支（中国山西省高平）での激戦中に、相手の手りゅう弾で右腕のつけ根から吹き飛ぶ重傷を負った。その後持ち前の負けん気から、翌年には入院

先の陸軍病院で開かれた剣道大会に出場し、左手一本で見事優勝を飾った。このことが失意の先生を立ち直らせるきっかけとなった。

昭和十七年（二十一歳）、陸軍病院を退院し帰郷。故大高良昌先生の助言により教師の道を目指し、軍人教員養成所の門を叩き、その後、桂城小、大館中、一中、古館中に勤めた。担当教科は国語と職業科であった。

昭和三十二年（三十六歳）、大館第三中学校に赴任し、野球部監督に就任する。当時三中のエースとして初めて全県大会に出場した、小さな大投手、こと、故今川敬三氏（秋田商時代、昭和三十五年春の選抜大会ベスト8）は当時をこう振り返っていた。「左手一本でボールをあげてノックするんです。キャッチャーフライが出来なくて、僕らの練習が終わったあと一人でバックネットを前にして練習をしていました。あのあと初めて出た全県大会でのシートノックで、ものの見事にキャッチャーフライが上ったんです。あの時は敵味方関係なく、ものすごい拍手が沸いたんですよ。」

昭和三十三年（三十七歳）、剣道部を創部して監督に就任し、野球部と兼任する。

昭和三十五年（三十九歳）、大館三中剣道部を初の全県優勝に導いた。しかし喜びの先生に病魔が忍び寄っていた。初優勝の翌日、先生は突発性脱疽で倒れた。手りゅう弾の後遺症と無理がたたったものだった。

第三期生の加藤浩氏（秋田高から明治大。現在加藤時計店を経営・教士七段）によると、「昭和三十五年頃から先生は左大腿部の脱疽が進行していたものと思われ、稽古に顔を見せる回数も少なくなり、防具をつけることもなくなっていました。同年七月、秋田市で開かれた全県大会の前日、旅館での痛みは相当激しく、同室した私の父は先生のうめき言、うなり声のため一睡もできなかったそうです。試合当日は悲願の初優勝を果たしましたが、即日入院。九月二十六日切断手術し、十二月に退院しました。」

四カ月後、義足をつけた先生は、生徒たちの拍手に迎えられて再び登校した。教え子たちから贈られた障がい者用自動車をもとして（自転車の車輪三本に幌を着け、アクセルは左手、ブレーキは右足で運転する九〇ＣＣの特殊自動車）。

しかし、不自由な体は少しずつ先生の心臓を圧迫していた。昭和四十八年十月三十一日、大館市内の病院でついに帰らぬ人となられた。

今思えば、宮崎先生はチームが試合で負けたとき、無い左足（義足）を左手でポンと叩いて悔しい顔をしていたのを覚えている。特に心に残っていることは、ある日先生が雪道で転んだのを私が助けようとした時のことである。立とうとしても立てなかった先生の、あの一瞬の表情。両手があったら、両足があったらと思っただけに違いない。また、大会前日の宿舎での夕食時、「誰だ茶碗持っていないのは。ちゃんと茶碗持って食べろ！」そのあと先生はこう言っていた。「先生は持ちたくても持てないんだぞ」と。私も教員になり、生徒にはつい「肘をついて食うな、茶碗を持って食べる」と言ってしまう。おそらくこの時の先生の言葉が心に残っているであろう。

昭和四十年のある日突然、防具を持った外国人が三中を訪れた。身長が二m近くもあり、日本名を「和名悟道」（ゴードン・ワナー氏）と称し、第二次世界大戦の沖縄戦で左足を失った米国軍人で、義足の剣士である。私の知る限りでは、お二人は四回ほど立会を行っている。



最初は昭和四十五年五月頃、新宿御苑の「汎太平洋リハビリテーション学会」での席上だった。二回目は、その後間もなくテレビで全国放映された。三回目は昭和四十年の初夏と思われる。第三中学校に於いて、大館市の労災病院の患者さんを招待して行われた立会であった。先生は左片手上段に構え、対するワーナー氏は中断の構えであった。ワーナー氏が「レッツゴー」と気合を發したので、なるほど外国人はこのように気合いを發するの、奇妙な感じを受けながらも感心したものだ。その後ワーナー氏より、剣道のデ

モンストレーションを開催したいという連絡が入った。私の祖父の運転する車で先生、長男の徹氏、そして私の四人で青森県の三沢基地まで行った。大ホールでは、司令官を筆頭に、約百名の将校が集まっていた。最後の二人の立会のあと、ものすごい拍手が起こり、先生が礼をして顔を上げた時には、全員総立ちの拍手に変わっていた。国民性の違いを見せられた一面でもあった。

このように障がい者の心の支えになり、国際交流として剣道を紹介した先生でもあった。



シリーズ道場紹介 第六回

雄信館内山道場

●代表 佐々木 誠

●所在地・電話番号

秋田市泉南二丁目一五番一七号
〇一八八六二一二一九

●本道場の歴史

昭和五〇年に剣道範士・故内山眞先生が秋田商業高校の校長をを退職後、地域の青少年の健全育成を目的に道場を開設。長年にわたり、剣道を通じて「礼節」「謙虚な姿勢」「日々の努力の積み重ね」「親への感謝」「思いやりの心」を指導されてきた。現在は弟子である道場のOBが中心になって指導にあたり、内山先生の教育方針を手本に、社会で幅広く活躍できる人材育成に取り組んでいる。

●稽古日と稽古時間

火・木曜日 午後六～八時
日曜日 午前九～十二時

●稽古内容と指導要点

人間形成を最終目標とし、正しい剣道の伝承を指導要点とする。また、子ども達が、勝利を経験することによって大きく成長する可能性を秘めており、道としての剣道と、競技としての剣道の両立を図っている。

●本道場の特色

幼稚園児から小学校高学年まで、幅広い年齢層の子ども達が修業の場を共有することにより、自然に上級生は下級生の世話をし、下級生は上級生を見習おうとする環境が長年引き継がれている。また、卒業後も中学生から大人まで多くのOBが稽古に訪れており、道場が子ども達にとって将来にわたる拠り所になっている。

●指導者数 十五人

●館員数 四十五人

●最近の主な試合成績

平成二十四年

全国少年少女剣道錬成大会 優秀賞

平成二十四年

秋田県少年剣道大会 優勝

平成二十五年

東北地区選抜

内山杯争奪少年剣道大会 優勝

平成二十五年

全国少年少女武道優良団体表彰

●会費 月額三千円または五千円

秋田県剣道連盟

少子化対策委員会 事業

「剣道やろうよ！」

集まれ少年剣士！
実施の報告

平成二十四年一月二十一日

天王総合体育館

秋田県では各地域においても少子化の影響による剣道人口の減少が深刻化しています。新学習指導要領では中学校武道必修化という時代の要請とは逆の現状にあります。

そこで、秋田県剣道連盟では少子化対策委員会を立ち上げ、こうした現状を調査・分析し、より効果的な啓蒙・普及活動を企画・運営し、剣道を志す子ども達をおおいに勧誘しようという取り組みを進めております。

昨年「剣道やろうよ！集まれ少年剣士！」を、県内でのモデルケースとして男鹿市・潟上市・南秋田郡剣道連盟の協力をいただき実施しました。

内容は、

・「立礼・中段の構え・素振り等の基本動作」の指導

・「紙風船割り」「ゴム風船割り」

・「新聞紙切り」「ボール打ち（ドリブル・打ち落とし）」



・「基本打ち体験」
・「左座右起」「正座・座礼」
等です。中学生が元立ちやアシスタントを務めてくれました。自分たちの後輩となる剣士の勧誘に一役買おうという意欲も見られ、こうした連携も大切であると感じられました。

当日は、引き続き潟上カップの大会観戦で締めくくりました。剣道を初めて体験し実際の試合を観戦することで興味関心を高め、剣道を始めるきっかけになってほしいと願っていたところ、後日調査では、当日参加した約80名の幼児・児童の内、



約30%が地域のスポーツ少年団に入会したという報告を受けています。大きな成果でした。

平成二十五年の十月十九日、郡市剣道連盟理事長・事務局長会議にてこの事業の「実施までの経緯と当日の内容」について報告致しました。今回のような取り組みに賛同され、是非自郡市でもやってみたいという要望がありましたら、少子化対策委員会まで問い合わせ下さい。

【連絡先】潟上市立羽城中学校
018-877-3211 森内厚志

第五十五回東北・北海道 対抗剣道大会に出場して

土田 圭助

県勢として 33年ぶりの個人優勝

このたび、第五十五回東北・北海道対抗剣道大会個人試合に出場させて頂き、とても光栄に思います。以前に一度、出場の機会を頂きましたが、一回戦敗退という不甲斐ない成績でした。このたびの出場は、前回の雪辱を果たすために、精一杯の調整と覚悟を持って臨んだ試合でした。



個人試合は、北海道代表選手八名、東北代表選手八名の計十六名のトーナメント方式で行われました。

大会規模が大きく、試合場は周囲からの注目を一身に浴びる雰囲気、プレッシャーは並大抵のものではありませんでした。そのような中、平常心を保ち試合に臨むということが、非常に、辛く、困難であったことを、今でも鮮明に覚えております。

東北勢のほとんどが序盤で敗退し、北海道代表選手対秋田県土田の状況となり、益々プレッシャーのかかる状況となりました。

内容は、一回戦から延長戦の連続で、集中力の差で勝負が決まる緊迫したものでした。その接戦を勝ち進むことができたのは、覚悟を持って試合に臨んだことが攻めの姿勢につながったからではないかと思えます。

結果として、吉田雅宏先生、伊藤忠善先生に次いで、秋田県三人目の個人試合の優勝をさせて頂きました。優勝は、周囲からのアドバイスや声援があつてのもので、自分一人の力では到底なしえなかったものと思います。



私が今回このような経験をすることができたのも、鑑会長をはじめとする諸先生方からのご指導があつたからであると強く感じております。心から感謝し、この経験をこれからの剣道人生に生かせるよう、これまで以上に精進していきたいと思えます。

広報委員会からお知らせ

URLは

<http://akitakenren.com/>

秋田県剣道連盟のホームページが昨年十月一日より新しくなりました。検索サイトで「秋田県剣道連盟」で検索できます。

試合結果などは、県内大会や全国・東北大会で上位入賞したときの内容掲載しています。

「郡市連盟ニュース」に各郡市から掲載記事を募集しています。

剣道人口の拡大を図るために各郡市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに載せていきたいと考えています。

情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当 保坂 徹
(連絡先) 秋田商業高校
TEL 018-823-4308
FAX 018-823-4310
E-mail: hosaka@cyber.ocn.ne.jp

編集後記

ホームページを新しくしましたが、まだまだ不備なところも多々いろいろご指摘があります。これから少しずつ改善していきたいと思っております。

また広報誌「秋剣連 第11号」の発行にあたり、ご多忙中にもかかわらずご寄稿戴きありがとうございました。心より感謝申し上げます。

編集

秋田県剣道連盟広報委員会

伊藤 隆、芳谷 正人

保坂 徹、辻 文彦

鹿子沢浩美